

北海道ケガニ ABC 算定のための基本規則

地方独立行政法人北海道立総合研究機構水産研究本部
甲殻類研究グループ分科会ケガニ ABC 検討部会

1 基本的な考え方

(1) 資源評価

ケガニ資源を持続的に有効利用するため、資源評価を毎年行い、許容漁獲量の科学的根拠となる生物学的許容漁獲量（ABC）を算定する。

(2) 管理規則と漁獲方策

北海道におけるケガニ資源に関して、科学的知見および資源特性の実態から、地域の漁業に対応した管理を行い、北海道ケガニ許容漁獲量設定に関する基本方針に基づく海域別の管理目標を実現するためのものとして、本規則を提案する。

ABC の算定においては、漁獲率 E （漁獲量を資源量で除した値）を適正な水準に保つ漁獲方策（漁獲率一定方策）を基本とする。

(3) 資源状態と適正な漁獲率

ABC 算定に用いる適正な漁獲率は、資源を有効に利用しつつ、資源を望ましくない水準にまで低下させる可能性が低くなるように設定する。資源がある閾値（ B_{limit} ）以下に減少した場合には、回復措置をとる。 B_{limit} は、経年変動傾向からそれ以下に減少するのは望ましくないと判断される水準等により定める。

資源が B_{limit} より高い水準にある場合、適正な漁獲率の限界値（ E_{limit} ）は、適正と判断される期間の漁獲率等により管理目標を達成できるように設定する。この E_{limit} により ABC の上限値（ ABC_{limit} ）を算定する。

(4) 予防的措置

資源評価はある程度の不確かさを持ち、資源の加入量変動は大きい。資源管理の失敗を高い確率で防ぐため、予防的措置をとる場合についても検討する。資源が B_{limit} 以下に減少しない、あるいは B_{limit} 以上に回復する確率が十分高くなるように漁獲率を引き下げた ABC の目標値（ ABC_{target} ）を算定する。

2 ABC 算定のための基本規則

雄の資源量 B により現在の資源状態を評価し、次のとおり ABC を算定する。

(1) 資源状態 : $B \geq B_{\text{limit}}$

$$ABC_{\text{limit}} = B \times E_{\text{limit}}$$

$$ABC_{\text{target}} = ABC_{\text{limit}} \times \alpha$$

(2) 資源状態 : $B < B_{\text{limit}}$

$$ABC_{\text{limit}} = B \times E_{\text{limit}} \times \beta$$

$$ABC_{\text{target}} = ABC_{\text{limit}} \times \alpha$$

- * B は漁獲対象となる雄の資源量（もしくは資源量指数）。資源量の代わりに資源調査等で得られた資源量指数を用いる場合は、漁獲率の代わりに漁獲率指数（漁獲量を資源量指数で除した値）について E_{limit} を設定し、資源量を用いる場合と同様に ABC を算定する。
- * B_{limit} は資源の回復措置をとる閾値。資源を B_{limit} まで減少させてよいという意味ではなく、資源が B_{limit} 近くで減少することが懸念される場合は資源の現状を維持する漁獲率以下にする等の措置が必要である。
- * E_{limit} は適正な漁獲率（もしくは漁獲率指数）の限界値で、適正と判断される期間の漁獲率、経験的な漁獲係数（ F_{max} 、 $F_{0.1}$ 等）に対応する漁獲率及びシミュレーションにより管理目標を達成する漁獲率等を用いて設定する。
- * α は予防的措置のための係数（安全率）で、1 未満とする（標準値 : 0.8）。
- * β は資源回復のための係数で、1 以下とする（標準値 : B / B_{limit} ）。

附則

この規則は、平成 24 年 8 月 17 日から施行する。

附則

この規則は、平成 25 年 10 月 11 日から施行する。